

北但行政事務組合 一般廃棄物処理基本計画改訂版の概要

1 改訂の経緯等

豊岡市、香美町、新温泉町（以下「関係市町」と表記します。）及び北但行政事務組合（以下「組合」と表記します。）は、平成18年2月に平成30年度を目標年次として、それぞれ一般廃棄物処理基本計画（以下「前計画」と表記します。）を策定していました。

環境省が定める「ごみ処理基本計画策定指針」では、「計画は、目標年次を概ね10年から15年先において、概ね5年ごとに改定するほか、計画策定の前提となっている諸条件に大きな変動があった場合には見直しを行うことが適切である。」とされています。

そのため、関係市町では、

- ①社会経済情勢の変化や循環型社会形成に向けた取組みにより、人口予測、ごみ量予測などに乖離が生じてきたこと
- ②北但ごみ処理施設の整備に関し、用地取得など事業の進捗に一定の目途が立ったこと

等から、目標年次を平成38年度とし、新たな目標値を踏まえて一般廃棄物処理基本計画が改訂されました。

組合では、改訂後の関係市町計画をもとに組合の一般廃棄物処理基本計画を検証した結果、見直しを行ったものです。

2 計画策定期間及び目標年次

前 計 画：計画期間 平成18年度（計画初年度）から平成30年度（目標年次）の13年間

関係市町及び組合が平成18年2月に策定

改 訂 版：計画期間 平成24年度（計画初年度）から平成38年度（目標年次）の15年間

豊 岡 市：平成24年9月27日

香 美 町：平成24年9月11日

新温泉町：平成24年7月20日

組 合：平成24年10月25日

3 改訂の主なポイント

（1）計画書の構成等について

- ① 第1章の前に序章を追加し、計画改訂の背景及び計画の成り立ちを明記しました。

- ② 第3章第3節に關係市町と組合の役割を明記しました。
市町⇒排出、収集・運搬及び資源ごみの集団回収・拠点回収
組合⇒中間処理、資源化・最終処分
- ③ 前計画では〈参考資料〉としていた汚泥量の検討を第7章に掲げ、算定方法などを詳述しました。
- ④ 前計画では第7章第4節として掲載していた施設整備に関する事項を第8章としました。

(2) 計画内容等について

- ① 実績値及び計画値については、關係市町計画から数値データを引用し、組合合計とした旨を明記しました。

(3) ごみの減量化及び再生利用率の動向について

- ① ごみの総排出量（収集ごみ量＋直接搬入ごみ量＋集団回収量）は、前計画では目標年次（平成30年度）と平成15年度の対比で5.6%削減となっていました、改訂版では目標年次（平成38年度）と平成19年度の対比で24.1%削減となっています。
- ② 再生利用率は、前計画では目標年次（平成30年度）26.0%であったが、改訂版では目標年次（平成38年度）29.1%となっています。

(4) 施設整備計画について

- ① 前計画では平成25年度稼働として計画していましたが、改訂版では、3年延伸し、平成28年度稼働としました。
- ② 前計画と改訂版の施設規模等各種数値は、以下のとおりです。

区 分	前計画 平成25年度時点	改訂版 平成28年度時点
将来人口	129,176人	119,080人
処理対象量（焼却対象量）	46,634.95 t/年	37,918.75 t/年
破碎選別対象量	4,170.26 t/年	1,982.65 t/年
選別保管対象量	3,459.84 t/年	1,840.42 t/年
ごみ処理施設 施設規模	174 t/日 { ごみ分 157 t/日 汚泥分 17 t/日	142 t/日 { ごみ分 128 t/日 汚泥分 14 t/日
リサイクルセンター 施設規模	37 t/日	19 t/日

- ③ 施設規模等各種数値の変動要因は、次の理由が考えられます。
- ア 関係市町住民により循環型社会形成への理解及び努力がなされたこと。
 - イ 関係市町による排出抑制・資源化等の施策が推進されたこと。
 - ウ 稼働時期が3年延伸したことに伴い算定時点がずれたこと。
(改訂版による平成25年度人口予測は122,447人)
 - エ 前計画策定時の予測を上回って人口が減少したこと。

【参 考】 既存施設の施設規模

① 豊岡清掃センター	1 4 0 t /24H (平成2年稼働)
② 矢田川レインボー	2 8 t /8 H (平成6年稼働)
③ 新温泉町クリーンセンター	3 0 t /8 H (平成4年稼働)
3施設合計	1 9 8 t /日